

事例

だい や がわ

大谷川のイワナを増やそう！～子供たちと考える持続可能な川作り～

日光市立清滝小学校、鬼怒川漁業協同組合日光支部、

国立研究開発法人水産研究・教育機構（栃木県）

栃木県日光市を流れる大谷川には、イワナが生息していますが、ごみの投棄や河川工事による生息環境の悪化や、魚を捕食する鳥や外来魚の増加、釣り人による乱獲等が原因で、その数は近年、大きく減少しています。鬼怒川漁業協同組合日光支部及び国立研究開発法人水産研究・教育機構は、こうした現状を地元の子供たちに知ってもらい、どうすればイワナが数多く生息する川を作り、未来に残していくことができるのか、日光市立清滝小学校の児童たちと一緒に考える授業を令和元（2019）年から実施してきました。

令和3（2021）年10月に大谷川で実施した、清滝小学校の全校児童約30名が参加した授業では、日光市の地域おこし協力隊¹の協力の下、イワナが減少した原因を学び、イワナを増やすための活動を行いました。川の周りのごみ拾いや、鳥から身を守ることができる魚の隠れ家作り、学校で育てたイワナの稚魚の放流等、様々な活動を通じ、イワナを増やすためには何ができるか、大谷川にどんな川になってほしいかを考えました。活動のうちごみ拾いは、3、4年生が提案したもので、児童たちの自発的な行動が見られたほか、授業の最後に行った「大谷川には、どんな川になってほしいですか？」という質問には、全員が「いつでも魚にあえる川」と答えました。

こうした子供たちの思いを受け、大谷川を、子供たちがいつでもイワナに会える川にできるよう、そして未来に残していける持続可能な川にできるよう、今後も授業を続けていきたいと考えています。



漁業協同組合の人と一緒に魚の隠れ家を設置



隠れ家の近くに稚魚を放流

1 都市地域から過疎地域等の条件不利地域に移住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組（総務省：地域おこし協力隊https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/02gyosei08_03000066.html）